

# 2018年度 安全管理プロジェクト活動報告

降矢久美子 加藤美佐 小山哲夫 佐藤亜矢子 杉山孝雄 設楽浩明  
田中協子 徳永誠 平原実留 三田和義 川原藤樹\* 小林邦宏\*\* 川田良暁\*\*\*  
物質・生命科学系 \*電気電子情報系 \*\*機械建設系

## 1. はじめに

本プロジェクトは、埼玉大学の教育・研究現場の安全管理活動を支援することを目的としている。以下に2018年度の主な活動について報告する。

## 2. 今年度の活動報告

### 2-1 薬品管理システムの管理・運用支援

総合技術支援センターでは、埼玉大学で購入されたすべての毒劇物薬品の薬品管理システムへの登録業務を行っている。本プロジェクトは、薬品データベース及びユーザーの基本データの更新など薬品管理システム上の管理だけではなく、薬品の使用や廃棄をする際のシステム利用法に関する問い合わせにも対応している。本年度は、情報メディア基盤センターのサーバ更新に伴い、薬品管理システムの新サーバ上での運用に向けた各種更新手続きを実施した。

### 2-2 安全管理についての情報提供・収集

教育研究機関化学物質管理ネットワーク(ACSES)より配信されている「ACSES ニュースレター」の記事から、学内に周知すべき事項を編集した「化学物質の安全管理かわら版」の発行を継続している。2018年度は、トピックスとして、6月号に「毒・劇物の管理注意」、12月号に「PRTR データの市民用解説ガイドブック」、1月号には「GHS 分類結果の更新」等を取り上げた。

また、今年度は「ヒヤリハット事例集 2018年版」を発行した。理・工学部、理工学研究科内における事故やヒヤリハットの情報を、事故報告書、学生実験時の学生へのアンケート、投書箱に投函されたヒヤリハット投書から得た。また、教育学部へは手紙で情報提供を呼

びかけ、全体で89件の事例を収集した。これらについて、内容の確認や文章の校正を行い、冊子にまとめた。この一部を抜粋して、「実験・実習 安全の手引(2019年版)」に掲載した。

さらに、「第7回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ」、「第11回教育研究機関化学物質管理ネットワーク(ACSES)総会」、「第12回化学物質管理担当者連絡会」、「第11回関東甲信越地区大学安全衛生研究会」、「第34回大学等環境安全協議会技術分科会」への参加を通して、他機関との意見交換や情報収集を行った。

### 2-3 その他の活動

今年度も工学部応用化学科からの依頼を受け、学生実験の安全教育を担当した。

また、理工学研究科安全衛生委員会からの依頼で「実験・実習 安全の手引(2019年版)」と「研究活動における安全管理ガイドライン(2019年版)」の改訂作業を支援した。

## 3. 今後の展開

大学の安全管理は単に法令を遵守すれば良いというものではない。高度な教育・研究成果を期待される大学の作業場では、現場に即した安全管理のための工夫が必要である。我々は、教員・学生を技術面で支援している技術職員として、その経験や知識を生かし、今後も、大学の安全管理に貢献していきたい。

